『ザ・フォース～ライヴ・アット・新宿ピットイン』
奥平真吾

ピットインレーベル PILJ-00011
発売中
●収録曲● ①フィールズ・オブ・サイザル ②ムバリッシュ ③ザ・ウェゼンバック ④ワン・フォー・カルロス ⑤ホエン・アイ・クローズ・マイ・アイズ ⑥ソフトリー・アズ・イン・ア・モーニング・サンライズ ⑦ダンス・オブ・ザ・ドリーム・メイカー
●パーソネル● 奥平真吾(ds)、シェリル・ベイリー(g)、ブライアン・シャレット(org)、本多俊之(sax/1,2,5,6)
■2008年に録音された、奥平5枚目のリーダー作。ギター、オルガンとのトリオで、ニューヨーク仕込みのグルーヴィなサウンドを聴かせている。4曲でゲスト参加している本多俊之のサックスも聴き所。

ミュージシャンが徹底試奏

Roland
V-Drums V-Pro Series
TD-30KV-S
Vドラムス・Vプロ・シリーズ

完全プロ仕様のステージ・モデルであるローランドV-DrumsのV-Proシリーズがリニューアル。V-Drums SuperNATURALサウンド・エンジンを搭載した最新&最高峰モデルが登場した。より繊細な演奏表現が可能となったV-Drumsの実力を試すべく、ジャズ・ドラマー奥平真吾が試奏し、その印象を語った。

Checker Shingo Okudaira

奥平真吾

プロフィール 東京都出身。3歳からドラムを学び、9歳の時にはすでにライヴハウスに出演。テレビなどにも取り上げられ、一躍時の人となる。77年に初リサイタルを開催し、『処女航海』でレコード・デビュー。本多俊之(sax)"バーニング・ウェイヴ"、益田幹夫(p)、辛島文雄(p)のグループを経て、法政大学卒業を機にニューヨークへ移住。これまで5枚のリーダー・アルバムを発表した。最新作は、ニューヨークで結成した自身のクァルテッド"THE FORCE"による、新宿ピットインでのライヴ盤(2009年リリース)。2010年には日本へ帰国。ニューヨークで結成した"THE FORCE"を国内で再編成し、新たに活動を始めている。
WEB=http://www.pit-inn.com/okudaira/

「V-Drumsで録音した自分の音を聴いた時、アコースティック・ドラムのような生っぽさには本当に驚きました」奥平真吾

フェザーリングにもきちんと反応してくれる

――奥平さんはこれまでにエレクトロニック・ドラムをプレイされたことはありますか？
奥平：アメリカ在住時に、楽器屋さんで興味本位で叩いた程度です。その時の印象よりも、格段にクオリティが上がってますね。語弊があるかもしれませんが、「オモチャ感」がなくなったと思います。
――これまでエレクトロニック・ドラムでは苦手と言われてきた部分、たとえば、連打した時に同じ音が「ダダダダッ……」と鳴ってリズム・マシンのように聴こえてしまうといった点などを解消して、スネアのロールやハイ・ハット・ワーク、ライド・シンバルのニュアンスを自然に表現できるようになっています。
奥平：演奏してみて、かなりよくできていると思いました。スネアも、叩く位置による音色の変化も、オープン・リム・ショットの際に、リムのかかり具合でサウンドが変わったり、感度が良いですね。バス・ドラムも、メッシュ・ヘッドのテンションを適切に調整したら、ジャズ・ドラマーがよくやるフェザーリング(ビーターで極軽くバス・ドラムを叩く奏法)にもきちんと反応してくれるようになりました。最初は、ピアノ・トリオなどの、いわゆる"どジャズ"でプレイしても楽しいですが、僕で言えば本多俊之(sax)とのBW4(バーニング・ウェイブ・クァルテット)のような、ちょっとフュージョン的な要素があって、大音量の中でもプレイに向いているかと思いました。スネアやライド・シンバルなど、ひとつひとつの音を作り込んでいけば、相当良い感じになりました。
――BW4のライヴで、1曲だけ4ビートの曲を演奏するような場合に、その曲だけジャズ用のドラム・キットに変えて演奏するというのも、V-Drumsならではの使い方で面白いかもしれませんね。
奥平：確かにそうですね。これを叩いていたら、1日中熱中しちゃいますね(笑)。
――試奏中、ライド・シンバルを叩きながら、どんどん音色を切り替えて好みのサウンドを探していましたが、そういった作業も、アコースティック・ドラムであれば、1枚スタンドに取り付けて、叩いて、また取り替えて……、ということになりますから、好みのサウンドを探したり、作り込む際にも、とても便利だと思います。
奥平：60年代、マイルス・デイヴィス(tp)でトニー・ウィリアムス(ds)が叩いていたライド・シンバルの音などは、すべてのジャズ・ドラマーが憧れるひとつの理想形ですから、そういう音が出せたら、とても嬉しいですよね。それに、シズルの数まで調整できるというのは、かなり驚きました。

 取材：布施雄一郎 撮影：桧川泰治(人物)

問：ローランドお客様相談センター（TEL.050-3101-2555） http://www.roland.co.jp/V-Drums/

TD-30KV-Sセット内容

Drum Sound Module「TD-30」×1
V-Kick「KD-140-BC」×1
V-Pad Snare「PD-128S-BC」×1
V-Pad「PD-108-BC」×2
V-Pad「PD-128-BC」×2
V-Hi-Hat「VH-13-MG」×1
V-Cymbal Crash「CY-14C-MG」×2
V-Cymbal Ride「CY-15R-MG」×1
Drum Stand「MDS-25」×1
〈サイズ=1,600mm(W)×1,200mm(D)×1,250mm(H)/重量=57kg〉

※キック・ペダルおよびスネア・スタンド、ハイハット・スタンドはキットに含まない
※別売品：シンバル・マウント=MDYシリーズ、パッド・マウント=MDHシリーズ、パーソナル・ドラム・モニター=PM-30、PM-10、V-Drumsアクセサリー・パッケージ=DAP-3、V-Drumsマット=TDM-20

TD-30

ドラム・サウンド・モジュール

ローランドの最先端技術を結集して生まれたVドラム音源のフラッグシップ・モデル。新開発の「V-Drums SuperNATURALサウンド・エンジン」の搭載、さらにUSB MIDI機能、ソング・プレーヤー機能など電子ドラムの可能性を広げた基本性能も進化。またアンビエンス専用フェーダーの搭載、視認性の高いディスプレイの採用など、使いやすさの面でも徹底的にブラッシュ・アップしている。

インタビュー中で奥平氏がお薦めしていた、ジャズ向けにサウンドが作り込まれたプリセット・キット『Swingin'』。もちろん、各パーツを個別に選択し、さらにヘッドの種類、シェルの材質や口径、深さ、スナッピーの張り具合などを細かく調整していくことで、オリジナルのサウンドメイクが可能。シンバルも、口径やシズルの数。サステインの長さなどをカスタマイズしていける。

自分のサウンドにカスタマイズできるのは大きな魅力

——ジャズ・ドラマーがV-Drumsをプレイする際のポイントはありますか？

奥平：プリセットで用意されているキットの中では「Swingin'」がお薦めです。これは僕が、レコーディングやテレビ収録などでいつも感じることですが、ジャズ・ドラマーは、シンバルの音をすごく聴きたいし、まさにそこにこだわっているのですが、収録するエンジニアは、皮モノをメインに録って、シンバルを抑えがちにする方がけっこういます。ジャズの場合、シンバルの「シャー」と鳴る響き、そこがポイントですので、音源のスライダーでシンバル類の音量を上げて、好みのバランスに調整すると良いと思います。

——今回のモデルには、「オーバー・ヘッド・マイク」の要素もコントロールできるようになっていますから、シンバルの空気感や、ドラム全体の臨場感も調整できます。

奥平：オーバー・ヘッド・マイクや、個々のマイキングを調整して音を作るという点は、アコースティック楽器にはまったくない発想で面白いですね。ジャズですと、本当に繊細な叩き方をしますから、ミニマム・ヴォリュームを下げてダイナミック・レンジの幅を広げたり、音作りの多彩さはとても良いと思います。やはり、自分のサウンドにカスタマイズできるというのは、V-Drumsの大きな魅力だと思います。いわゆる、アコースティック・ドラムで言うところ、ヘッドを変えたり、スナッピーの張り具合を微調整するといったことと同じことができるわけですから。

——それらを100キット保存できて、瞬時に切り替えて演奏することができるという点も、アコースティック・ドラムではあり得ないことですからね。

奥平：特にV-Drumsで録音した自分の音を聴いた時、アコースティック・ドラムのような生っぽさには本当に驚きました。そういったドラムが、自宅で叩けるという静穏性に対する需要は、とても高いと思います。パーカッションやオーケストラ打楽器、さらにドラムでハーモニーが奏でられるようなデジタル楽器ならではのユニークなキットもいろいろと用意されているので、ジャズ・ドラマーはもちろん、ソロ・パフォーマンスを楽しみたいというプレイヤーには、お薦めだと思います。■

Roland TD-30KV-S

価格：オープン・プライス
（実勢価格：¥600,000前後）

V-Drums SuperNATURALサウンド・エンジン搭載のフラッグシップ音源モジュール「TD-30」と、高解像度センサーを搭載し、繊細なニュアンスまで検知するVパッド＆Vハイハットを採用したV-Drums最高峰モデル。ダイナミクス、ハイハット・コントロールなど、演奏をサウンドへ的確に反映させるだけでなく、連打やロールのようなドラム特有のサウンド・リアクションと、ドラムに適した残響音を忠実に再現することで、心地よい演奏フィールと自然で表現力豊かなサウンドが得られる。ハイ・ハットの演奏性能もさらに進化し、オープンからクローズへ無段階に音色が変化するほか、少し開いたスライト・オープン、クローズからさらにペダルを強く踏み込んだプレス・ハイハットなどの繊細なコントロールも可能となっている。ライド・シンバルでは、叩く強さと打点位置により音色がさまざまに変化し、ジャズ特有のシンバル・ワークにも充分に対応する。幅広い音楽シーンに対応するプリセット・キットが100種類用意されており、残響音を瞬時にコントロールできるアンビエンス専用フェーダー搭載。究極のレスポンス性を実現しており、USBメモリーによるオーディオ・ファイル（WAV/MP3）再生しながらプレイすることも可能だ。■